

## QND Plus Ver.9.1 -紹介編- 正誤表

2006年3月2日 クオリティ株式会社

- マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤対象表をご覧ください。

※2005年10月21日版より、新たに追加した内容はありません。

ページ	見出し	誤		正
9	2-1 バージョンアップ前の注意	QND Ver. 9. 1にバージョンアップしたQNDサーバと、QND Ver. 8. 7 SP2より前のバージョンのホストでは通信ができません。	→	削除
9	2-1 バージョンアップ前の注意	コンソールをインストールしているスレーブサーバPCでは、まずスレーブサーバをバージョンアップさせる必要があります。	→	スレーブサーバPC上で、コンソールを運用している場合は、いったんコンソールをアンインストールする必要があります。スレーブサーバをタスクでバージョンアップ後に、再度コンソールプログラムをインストールしなおしてください。
9	2-1 バージョンアップ前の注意	QND Ver. 8. 7 SP2以前のバージョンで作成したタスクファイルは、QND Ver. 9. 1では読み込むことができません。	→	削除
14	4-3 ソフトウェアインベントリとして収集 ソフトウェアインベントリの収集 注意 管理者権限	クオリティ社製品のインベントリ情報を収集するには、管理者権限が必要です。ホストが管理者権限を持ったユーザでログオンした状態でタスクを実行するか、[Switch Userを利用する]のチェックがオンになっているタスクを実行してください。	→	削除

■ マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤対象表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
New16	3-1 クライアントの対応OS	FreeBSD 4.8(x86)/4.9(x86)/ 5.1(x86)/5.2(x86)	→	FreeBSD 4.4(x86)/4.6(x86)
New16	3-1 クライアントの対応OS	TurboLinux 7.0(x86)/ 8.0(x86)/10.0(x86)/ 10.0F(x86)	→	Turbolinux 7.0(x86)
New16	3-1 クライアントの対応OS	Red Hat Linux 7.2(x86)/ 7.3(x86)/8(x86)/9(x86)/ Works/Fedora	→	Red Hat Linux 7.2(x86)/ 7.3(x86)
New49	2-3 クライアント主導で行うプル実行	作業手順は、次のとおりです。 ▶ SU時に使う管理者情報の登録 ▶ SUの手動インストール ▶ スレーブサーバのインストール	→	作業手順は、次のとおりです。 ▶ SU時に使う管理者情報の登録 ▶ SUの手動インストール ▶ <b>インベントリの取得</b> ▶ スレーブサーバのインストール
New49	2-3 クライアント主導で行うプル実行 SUの手動インストール	誤表記なし 該当項の次に右の項を追加	→	<b>インベントリの取得</b> スレーブサーバとするPCのハードウェアインベントリを取得します。 QNDコンソールで、ハードウェアインベントリを取得するタスクを作成し、対象PCからプル実行します。 ハードウェアインベントリの取得方法については、『運用編』「I 3.タスクの作成」(21ページ) および「I 3-2 ハードウェアインベントリを収集する設定」(23ページ)、プル実行については、『運用編』「I 4-3 プル実行」(41ページ)を参照してください。
116	3-1 既存のQNDサーバをバージョンアップする場合 注意 手動でバージョンアップが必要なファイル	QND サーバをQND Ver. 9.1 にバージョンアップする場合、バージョンアップを行う前に次のファイルを別の場所にコピーしておき、バージョンアップ後に元の場所に戻してください。 ▶ ¥QNDPlus¥QIVSRV.CONF ▶ ¥QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv ▶ ¥QNDPlus¥etc¥multicast.ini	→	QND サーバをQND Ver. 9.1 にバージョンアップする場合、バージョンアップを行う前に次のファイルを別の場所にコピーしておき、バージョンアップ後に元の場所に戻してください。 ▶ ¥QNDPlus¥bin¥Rulea7.csv ▶ ¥QNDPlus¥etc¥multicast.ini バージョンアップするとQIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ってしまいます。したがって、バージョンアップ後にQIVコンソールを起動して[CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定]の内容を再度設定しなおしてください。

ページ	見出し	誤		正
125	3-1既存のQNDサーバをバージョンアップする場合 ⑤コンソールのコンバート 注意 スレーブサーバPC上のコンソールのコンバート	スレーブサーバPC上でコンソールを運用している場合は、スレーブサーバをバージョンアップ後にコンソールのコンバート作業を行ってください。スレーブサーババージョンアップ前にコンソールのコンバート作業を実行すると、スレーブサーバ内のデータは破棄されます。	→	スレーブサーバPC上で、コンソールを運用している場合は、いったんコンソールをアンインストールする必要があります。スレーブサーバをタスクでバージョンアップ後に、再度コンソールプログラムをインストールしなおしてください。
New150	2-2 動作確認済みOSバージョン 表内 [Free BSD]	4. 8 (x86) /4. 9 (x86) /5. 1 (x86) / 5. 2 (x86)	→	4. 4 (x86) /4. 6 (x86)
New150	2-2 動作確認済みOSバージョン 表内 [Linux]	Red Hat Linux 7. 2 (x86) / 7. 3 (x86) /8 (x86) /9 (x86) / Works/Fedora turboLinux 7. 0 (x86) / 8. 0 (x86) /10. 0 (x86) / 10. 0F (x86)	→	Red Hat Linux 7. 2 (x86) / 7. 3 (x86) TurboLinux 7. 0 (x86)

# QND Plus Ver.9.1 -リファレンス- 正誤表

2006年3月2日 クオリティ株式会社

■ マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤対象表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
37	4-7 メッセージ送信 ヒント その他のメッセージの送信方法	「6-14 電子メールの送信」を参照してください。	→	「I 6-13 電子メールの送信」を参照してください。
57	6-13 電子メールの送信宛先の設定 表内 [電子メールアドレス]	本マニュアル「I 6-15 電子メールアドレスのインポート」を参照してください。	→	本マニュアル「I 6-14 電子メールアドレスのインポート」を参照してください。
New 119	9-2 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [セットアップ] タブ 表内 [セットアッププログラム名]	誤表記なし 右の記述を追加	→	「セットアッププログラム名で利用できる環境変数」(122ページ)を参照してください。
New 125	9-4 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [ファイル転送] タブ 「ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」 表内 [転送元ファイル名 (転送元ディレクトリ名)]	接続先サーバ (ホスト一覧の左のカラムの [接続先] に表示されているサーバ) を指定する場合は、コンピュータ名を%で指定することができます。 (例: %¥¥¥¥data¥¥sample. doc)	→	削除
New 131	9-7 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [オプション] タブ 表内 [チェックポイントリスタートをする]	誤表記なし 右の記述を [説明] に追加	→	※チェックポイントリスタートが、中断しても可能な場合 ①そのタスクで複数のファイルの転送をおこなう設定をしている ②少なくとも1つのファイルの転送が完了している
New 131	9-7 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [オプション] タブ 表内 [帯域制限をして転送]	誤表記なし 右の記述を追加	→	<b>注意 帯域制限できない場合</b> 「ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」で、[転送元へのファイルアクセスはエージェントが直接おこなう] にチェックを入れている場合は、この機能が使用できません。 「ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」については、「ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」(125ページ)を参照してください。
178	5. サーバログ 作成されるログファイルの種類	作成されるログファイルの種類は次の11個です。	→	作成されるログファイルの種類は次の12個です。
New 178	5. サーバログ 作成されるログファイルの種類 表内 [upload. log]	収集されたインベントリが ¥QNDPlus¥Data¥Update から ¥QNDPlus¥db にアップロードされた情報	→	収集されたインベントリがホストからサーバにアップロードされた情報

ページ	見出し	誤		正
New178	5. サーバログ 作成されるログファイルの 種類 表に [update. log] を追加	誤表記なし 右の記述を [説明] に追加	→	収集されたインベントリが ¥QNDPlus¥Data¥Updateから ¥QNDPlus¥dbにアップロードさ れた情報
New186	8-4 ポート番号の説明 マスターサーバが使用する ポート番号 表内 [QPオプション] [→] [マスターサーバ、スレー ブサーバ] [27706]	[通信種別] UDP	→	UDP/TCP

## QND Plus Ver.9.1 -QIV Ver.5.1- 正誤表

2006年3月2日 クオリティ株式会社

- マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤対象表をご覧ください。

ページ	見出し	誤	正
New 61	12. SW-ADOBE/SW-ADOBE (PRODUCT-ID) SW-ADOBE (PRODUCT-ID) 台帳 注意 「SW-ADOBE (PRODUCT-ID)」台帳の項目表示について	誤表記なし 右の記述を追加	→ Adobe製品のインベントリ収集においては、特定のレジストリよりシリアル番号等の値を取得しています。一部のAdobe製品では、仕様により、入力されたシリアル番号を変換した値をレジストリに設定している場合があります。そのため、「SW-ADOBE (PRODUCT-ID)」台帳で表示されるIDが入力されたシリアル番号とは異なる場合があります。
111	4. クオリティ社オプション製品インベントリ台帳で表示されるアプリケーション表内 [DocuCom]	5. 0/6. 0/7. 0	→ 5. 0/6. 0

# QND Plus Ver.9.1 -リモートコントロール- 正誤表

2006年3月2日 クオリティ株式会社

■ マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤対象表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
New 13	3. RCオプションのインストール	誤表記なし 右の注意を追加	→	<p><b>注意 RCオプション（常駐モード）の再インストール</b></p> <p>バージョンアップなどの目的で、RCオプション（常駐モード）を再インストールした場合、リモート操作ができなくなったり、リモート操作中に操作画面が突然終了したりすることがあります。それぞれの原因と対処は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>リモート操作ができない</b> RCオプション（常駐モード）の再インストール後、ホストの再起動がおこなわれていない。対処：ホストの再起動</li> <li>▶ <b>リモート操作画面の突然終了</b> リモート操作中に、タスクによるRCオプション（常駐モード）の再インストールが実行された。対処：リモート操作中にRCオプション（常駐モード）のインストールが実行されないようにする</li> </ul> <p>※必要のない限り、RCオプションインストール済みのホストに対し、再インストールを行わないことをお奨めします。</p>
New 22	3-3 インストール方法 [QPオプションとSUのインストール]を利用したRCオプションのインストール	<p><b>注意</b></p> <p>リモートコントロールの機能は、RCオプションをインストール後にホスト側でいったんログオフし、ログオンし直してから有効になります。</p>	→	削除
42	9-2 開始 QNDコンソールからのリモートコントロール 手順3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RCオプションが「自動開始」モードのRCホストの場合、</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RCオプションが「常駐」モードのRCホストの場合、</li> </ul>